

ささえ愛

北宇和高等学校
人権委員会
2025 9月号

2学期が始まり、慌ただしい毎日が続いています。2学期は学校行事が多く、みんなで協力して活動する場面が増えます。そのような場面では、思いやりの気持ちや相手を尊重しながら自分の意見を伝えるアサーティブな表現が大切になります。この人権だより「ささえ愛」を通して、人権について改めて考え、自分の日頃の言葉や行動を振り返り、学校生活に役立ててほしいと思います。



地方創生推進課 伊手 秀人

さて、皆さんは「人権」と聞いて何を思い浮かべますか？ 遠い昔の話、難しい法律、自分とは関係ないこと…。そう感じる人もいるかもしれません。しかし、人権は私たちの身近に、そして一人ひとりの生活の中に深く根ざしています。無意識のバイアス乗り越える皆さんは、SNSで何気なく投稿した言葉が、誰かを傷つけてしまうかもしれないと考えたことはありますか？ 私たちは無意識のうちに、特定のグループや属性に対して、ステレオタイプな見方を持ってしまうことがあります。これを「無意識のバイアス」と呼びます。例えば、「〇〇県出身だから～」「スポーツをやっている人は頭が悪い」といった決めつけは、その人自身を正しく見ていないことになります。このような無意識のバイアスは、差別の温床となりかねません。私たちは、相手を「〇〇な人」という枠組みで見るのではなく、一人の人間として向き合うことが大切です。相手の個性や考え、そして痛みを想像する力。これこそが、より良い社会を築くための第一歩なのです。差別の歴史から学ぶ「今」日本には、長い歴史の中で特定の地域や出自に対する差別が続いてきたという、悲しい現実があります。同和問題は、そうした差別の歴史に深く関わっています。かつて、身分制度の下で特定の職業や地域に住む人々が、不当な扱いを受けてきました。そうした差別は、法律上は撤廃されたものの、人々の意識の中に残り、今もなお、結婚や就職、進学で不利益を被るケースが報告されています。なぜ、このような差別が起こったのでしょうか？ それは、知らないこと、そして間違った情報を鵜呑みにすることから生まれます。過去の歴史を正しく学び、そして今、身の回りで起きている出来事に関心を持つことが、未来の差別を防ぐ力となります。

今、私たちには何ができるのでしょうか。それは、まず「知る」ことから始めることです。人権学習や講演会に真摯な姿勢で参加し、正しい知識を身に付けましょう。次に、「考える」こと。なぜ、その差別は起こるのか、どうすればなくせるのか、自分の頭でじっくりと考えてみましょう。そして、「行動する」こと。困っている人がいたら声を掛けたり、差別的な言動を見聞きしたら「それは違う」と意思表示をしたり、小さな一歩でもいいのです。

あなたの「声」は、誰かを守り、未来を変える力を持っています。お互いの人権を尊重し、誰もが自分らしく生きられる社会を、私たち自身の力で築いていきましょう。

※ 人権だより「ささえ愛」では皆さんの感想、人権についての考えを募集しています。

感想・意見 () 年 () 組 ()

切り取り線

人権委員会の活動

8月1日(金)に行われた宇和島地区生徒人権委員会交流学習会に2年生の人権委員の数名が参加しました。グループ協議では、Z世代を魅了する歌手“ちゃんみな”さんの体験や活動を通して、人権問題について深く考え、他校の生徒と意見を共有しました。自尊感情や自己肯定感の大切さを改めて実感し、周りと自分を比べず、他人を大切にするためにはまず自分自身を大切にしなければならないと学びました。他校の生徒と交流できたことも、貴重な経験となりました。



7月号の感想を紹介します。

1年生

・私は、人生何が起こるか分からないので、今のうちから周りの人に感謝の気持ちを伝えたり、積極的に色々なことに挑戦したりしたいと思いました。

・人の進む道はそれぞれ違うので、周りの人たちが少しでも支えて助け合っていくことが大事だと思いました。

2年生

・今は大人の意見に従ってばかりで、自分の意見を言えないことが多くあります。人生は1度きりなので後悔しないためにも意見ははっきりと言えるようになりたいと思います。

・人の意見を聞くこともすごく大事だけど、自分で進む道は自分で決めることが一番大切だと感じました。

3年生

・自分の道は自分で決め突き進んで行くことが大切だとわかりました。自分のやりたいことをやっていきたいと思いました。

・人がしようとしていることを尊重することが大事だと感じました。また、自分のしたいことを応援してくれる人を大切にすべきだと思いました。

7月号は、人の進む道や、周りの人の対応について考える記事でしたね。

